博物館・文化財だより

令和8年度 恩納村博物館実習

博物館実習は、大学で学芸員の免許を取得するにあたって、修得すべき博物館に関する科目の一つとなっています。今年度は、沖縄国際大学4年次で瀬良垣出身の當山千尋さんが実習を実施しました。本実習では、大学で学んだ学芸員養成教育の知識や技術、理論を生かし、現場での実体験を通して、学芸員に必要な知識や技術の基礎を修得することを目的としています。10日間という限られた期間の中で、博物館活動に関する座学のほか、資料の収集・整理・調査、教育普及など、学芸員の業務の一端を体験してもらいました。

実技では、民俗・考古・歴史・自然資料の取り扱い方や山田区と瀬良垣区で年中行事や屋号などの地域情報について聞き取り調査を実施しました。課題研究については、フィールドワークにおける聞き取り調査や文献調査等を通してテーマに迫り、展示計画から展示物の作成、レイアウト、展示、職員を対象とした解説会の実施と学芸員の一連の企画展示会に取り組み、貴重な体験になったと思います。

明るい人柄で、丁寧にメモをとりながら活動に取り組み、職員とのコミュニケーションを大切にしながら、真摯に実習に向き合う姿が印象的でした。実習で得た経験を今後の大学での学びにつなげ、これからも様々なことに興味・関心を持ち、探求する姿勢を大切にして、将来に生かしていただければと思います。

聞き取り調査

考古学 石膏復元

展示計画立案

展示物作成作業

展示解説会の様子

万座毛海食洞内の調査

万座毛遊歩道改修設計業務に伴い、遊歩道周辺にある海食洞（かいしょくどう）について、調査を行いました。万座毛の海食洞は、波の浸食によって形成された自然の空間です。普段は海水や波の影響を受けるため、自由に立ち入ることはできませんが、今回は干潮の時間帯に合わせて洞内の状況の確認調査を実施しました。

調査の結果、洞内から砥部焼（とべやき）とみられる焼き物や、銃弾、小刀の切羽（せっぱ）などが見つかりました。また、18世紀頃のものと考えられる中国産青花碗（焼き物）も確認されました。

今回の調査で洞内からさまざまな遺物が確認されましたが、これらがどのような経緯で残されたのかなど、まだ分かっていないことが多くあります。

そこで、万座毛の海食洞や周辺について、昔の様子をご存じの方、過去に洞内を見たり入ったりしたことがある方、関連する話を聞いたことがある方からの情報提供を募集しています。

「関係があるか分からない」という情報でも構いません。万座毛についての記憶や資料をお持ちの方は、ぜひ情報提供をお願いいたします。

確認された遺物

洞内調査（内より）

お問い合わせ：恩納村博物館 ☎982-5112